

はじめに

元来、子どもたちは、家庭や学校だけでなく、地域社会とのかかわりの中で、多くのことを学びながら成長してきました。しかし、都市化の進行に伴い、地域の間関係が希薄になり、地域の産業や伝統文化等を通じた多様な「つながり」が少なくなり、子どもたちのコミュニケーション能力や自己有用感などの後退が懸念されるどころです。

新学習指導要領では、総則に「豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手となることが期待される児童に、生きる力を育むことを目指すに当たっては、各教科等の指導を通してどのような資質・能力の育成を目指すのかを明確にしながら、教育活動の充実を図るものとする」と示されています。そして、そのための手だてとして「児童や学校、地域の実態を適切に把握し、必要な教育の内容を教科等横断的な視点で組み合わせていくこと」が明記されています。

また、2015（平成27）年の国連サミットでは、SDGs（持続可能な開発目標）が採択され、持続可能な世界を実現するための17の目標等が示されています。その中で、SDGsの目標4は、教育に特化したもので、「人権、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、すべての学習者が持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を修得できるようにする」と記しています。

本校では、従前より行われてきた人権教育と地域に関する学習に、平成23年度よりESD（持続可能な開発のための教育）の考え方を取り入れました。そして、「ふるさと甚目寺 かかわる つたえる つながる」を全校テーマとして、各領域・各教科とのつながりの中で教育活動を行うようにし、これを「ESDカレンダー」として整理しました。また、ESD推進の拠点としてユネスコスクールに登録され、他のESD実践校との交流を重ねてきました。これらの活動を通して、子どもたちには、将来の地域の担い手としての意識が高まりつつあります。

こうした研究の成果を土台とし、平成29年度・30年度、「人とかかわりを大切に、進んで行動できる児童の育成」という研究主題を掲げ、ESDカレンダーの見直しを行い、人権教育を基盤とした、道徳や各教科と連携したESDに係わる活動の展開とESDの視点に立った授業づくりを中心に、研究を進めてまいりました。

今回、ESDについて研究する機会をいただき、講師の先生からご指導を受けたり、授業研究を行ったり、他校・他地域のESD実践に学んだりする中で、子どもたちの成長とともに、私たち教師の指導力・教師力を向上させることができたことに感謝申し上げます。本日は、限られた時間の中ではありますが、これまで積み上げてきた取組について、精一杯発表させていただきま。さまざまな角度から御指導をいただければ幸いです。

平成30年11月21日

あま市立甚目寺小学校長 栗木一郎